

酔いどれ天使 上映時間 98分

『酔いどれ天使』（よいどれてんし）は、1948年（昭和23年）4月27日公開の日本映画である。東宝製作・配給。監督は黒澤明、主演は三船敏郎・志村喬。モノクロ、スタンダード、98分。

闇市を支配する若いやくざと、貧乏な酔いどれ中年医者とのぶつかり合いを通じて、戦後風俗を鮮やかに描き出したヒューマニズム溢れる力作。黒澤・三船コンビの最初の作品であると同時に、志村が黒澤作品で初主演した。第22回キネマ旬報ベスト・テン第1位。

あらすじ

反骨漢だが一途な貧乏医師・真田は、闇市のやくざ・松永の鉄砲傷を手当てしたことがきっかけで、松永が結核に冒されているのを知り、その治療を必死に試みる。しかし若く血気盛んな松永は素直になれず威勢を張るばかり。更に、出獄して来た兄貴分の岡田との縄張りや情婦を巡る確執の中で急激に命を縮めていく。弱り果て追い詰められていく松永。吐血し真田の診療所に運び込まれ、一旦は養生を試みるが、結局は窮余の殴り込みを仕掛けた末、返り討ちで死ぬ。真田はそんな松永の死を、毒舌の裏で哀れみ悼む。闇市は松永などもとからいなくなったように、賑わい活気づいている。真田は結核が治癒したとほほ笑む女学生に再会し、一縷の光を見出した気分である。

スタッフ

監督：黒澤明 製作：本木荘二郎 脚本：植草圭之助、黒澤明 撮影：伊藤武夫 美術：松山崇 録音：小沼渡
演出補佐：小林恒夫 照明：吉沢欣三 音響効果：三縄一郎 編集：河野秋和
現像：東宝フィルムラボラトリー 特殊効果：東宝特殊技術部 音楽：早坂文雄
挿入歌：「ジャングル・ブギ」（作詞：黒澤明、作曲：服部良一、歌：笠置シズ子）
ギター演奏：伊藤翁介 演奏：東宝交響楽団、東宝モダンニヤーズ

キャスト

真田：志村喬 松永：三船敏郎 岡田：山本礼三郎 奈々江：木暮実千代 美代：中北千枝子 ぎん：千石規子
ブギを唄う女：笠置シズ子 高浜：進藤英太郎 親分：清水将夫 ひさごの親爺：殿山泰司
セーラー服の少女：久我美子 婆や：飯田蝶子 チンピラ：生方功 ヤクザの子分：谷晃
ギターの与太者：堺左千夫 ヤクザの子分：大村千吉 花屋：河崎堅男 花屋の娘：木匠久美子
ダンサー：川久保とし子、登山晴子、南部雪枝 姉御：城木すみれ ヤクザの子分：宇野晃司（ノンクレジット）

作品解説[編集]

本作は、黒澤明と三船敏郎が初めてコンビを組んだ作品である。三船は1947年（昭和22年）の第1期東宝ニューフェイスで補欠採用され、同年公開の『銀嶺の果て』（黒澤脚本・谷口千吉監督）でデビューした。この作品で見せた野性的な魅力とスピーディーな演技に驚嘆した黒澤は、三船に惚れ込んで本作の準主役・松永役に起用した。この作品の主人公は医師の真田役・志村喬であるが、準主役・三船の強烈な魅力が主役を喰ってしまっている。その志村は黒澤作品としては本作が初主演であった。さらに、作曲家の早坂文雄も黒澤と初めてコンビを組んだのも本作である。

黒澤は「ここでやっと、これが俺だ、というものが出たんだな。『素晴らしき日曜日』ではそれが出かかって出なかったような気がする」と述懐しており、黒澤作品の個性的なテーマや技法を確立した作品といわれている。